

## ●廃棄物削減

富士フィルムグループでは、製造工程だけでなく製品のライフサイクル全体にわたり総合的に、資源の有効利用、廃棄物の削減に取り組んでいます。リサイクルや省資源を考慮した製品設計とともに、製造段階での廃棄物については、日・欧・米・中の各地域にて地域の社会状況を踏まえた削減活動を進めています。日本では2011年度からグループ全体最適の視点での、廃棄物の有価物化・リサイクルの質向上の活動に、製造拠点だけでなく、オフィスや物流倉庫なども含めた事業全体で取り組んでいます。この地域全体最適化の取り組みは、米州でも地域統括本社を中心に進めています。

2017年度の廃棄物発生量は、中国プラスチック輸入規制強化による排出プラスチックの有価物リサイクル化率の低下があったものの、削減努力により前年同等となりました。2030年度目標(2013年度基準)に対しては2%増の状況です。中国のFUJIFILM Printing Plate (China)では廃溶剤を回収し、蒸留して再利用する設備を立ち上げ、廃棄物の利活用に取り組んでいます。今後は、各拠点の廃棄物排出物やその処理について現状を再整理した上で、事業ポートフォリオ変化も見据え、富士フィルムグループ全体での廃棄物削減についての長期削減戦略や具体的施策立案の検討を進めていきます。

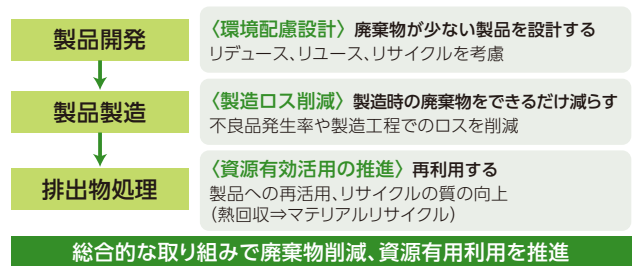
また、世界各地域の営業拠点も含めた廃棄物発生量については、2016年度にグループ共通の新たな環境データ収集・管理システムを導入し、タイムリーかつ、より正確に把握・管理できるようになりました。

## ●資源投入量削減

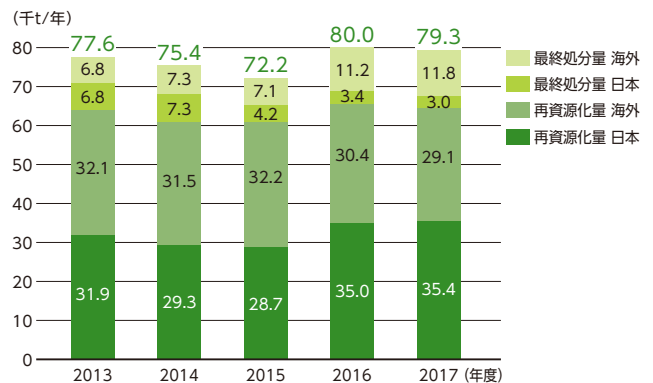
富士フィルムグループは、化学品、高機能材料、機器など、幅広い製品を開発・提供していることから、省エネ法でも認められている「生産時の使用エネルギー量を用いて種々製品の生産量を換算する換算生産数量」を用いた「資源投入原単位の評価方法(換算生産数量あたりの資源投入原材料重量)」を2016年度に策定し、2017年度より評価を開始しました。2017年度は、生産サイトでのロス削減・端材等の原材料への再利用化、省資源化・小型化を考慮した製品設計などの継続した取り組み推進により、前年比で7%改善しました。2030年目標(2013年度比)に対しても22%改善と高い進捗率で、順調に改善が進んでいます。

主力事業であるドキュメントの製品の一つの複合機・複写機については、「使用済み商品は廃棄物ではなく貴重な

### ▼富士フィルムグループでの廃棄物削減への取り組み

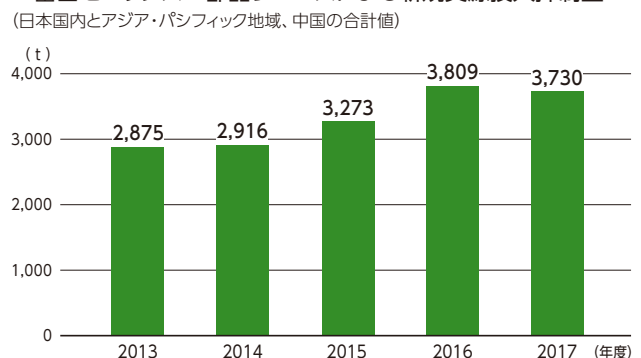


### ▼廃棄物発生量<sup>※1</sup>、再資源化量及び最終処分量<sup>※2</sup>の推移



※1 廃棄物処理外部委託量とサイト内で単純焼却または単純埋め立てした量  
 ※2 外部委託及びサイト内で単純焼却または単純埋め立てした量

### ▼富士ゼロックス 部品リユースによる新規資源投入抑制量<sup>※</sup>



※製造過程でリユース部品を活用したことによって、新規資源を抑制できた量

資源である」との考えの下、お客様が使用した商品を回収し、リユース・リサイクルすることで、資源の有効化と限りなく廃棄ゼロを目指す資源循環活動を推進してきました。2016年度から、新商品企画ではリユース部品の活用を前提としています。

2017年度の同製品群の使用済み商品の再資源化率は、海外も含めたすべての拠点で廃棄ゼロ基準である99.5%以上、国内では99.9%を前年度に引き続き達成しています。一方、部品リユースによる新規資源の投入抑制量は3,730トンになり、昨年度より79トン減少しました。これは、生産量が同じであってもリデュースによる小型軽量化により、リユース部品の活用量が減少傾向にあるためです。今後も、3Rトータルで資源抑制に努めていきます。